

季刊誌 C E L 5 2 号

「 C E L からのメッセージ 」

大阪ガス エネルギー・文化研究所 副所長
安達 純

昨年、季刊誌 C E L をお読みいただいている方々のお手を煩わして、季刊誌 C E L について、いろいろのご意見を承った。ご多忙の中、回答をお寄せいただいたお礼を兼ねて、ここに調査結果の概要をご報告させていただく。

調査表をお送りした対象総数は 3 , 1 3 6 。このうち返事をいただいた方は 3 5 4 で、回収率は 1 1 % であった。その 8 割が男性で、残り 2 割が女性。年齢別では、5 0 才以上が 8 割を占め、また職業別では、大学・研究所・シンクタンクが 3 7 % 、民間企業・団体 2 6 % 、官公庁関係 1 1 % 、その他 2 6 % であった。

さて、主な調査結果であるが、まず、毎号必ず目を通すとお答えいただいたのは全体の 8 6 % 、そして、毎号半分以上の内容を読むが 7 0 % であった。

今後、充実を望みたいジャンルとしては、文化 5 9 % 、次いで環境 4 5 % 、生活 3 3 % 、歴史 3 1 % (3 つまで選択) であった。また、自由記述欄で具体的テーマとして挙げられたのは、「環境問題への

対策」が最も多く、「都市の人口問題」「都市居住」「都市の文化」「日本文化」「大阪・阪神の歴史」「教育への指南」「世界の生活文化探訪」「家族」などがこれに続いた。

文体として好まれるのは、論文調（30%）よりもエッセー風（49%）のものである。ただ、年齢別に見ると、40才代ではそれが逆転して、論文調が47%とエッセー風の42%を上回ったのは面白い。

どういう人の文章を読みたいかについては、実践者がトップで57%、次いで僅差で文化人56%であった。

自由記述として、「写真がきれいで良い」「内容が充実している」「このままでよい」というご意見がある一方で、「紙質、装丁などが立派すぎる。軽量化、資源節約を考えてはどうか」「専門家が読むのを前提としているものが多く、内容や文章が難解」「分量が多すぎる」との辛口のご意見もいただいた。

最後に、「季刊誌CELの総合評価は何点か」の問いには、80点代が最も多く40%、次いで90点以上が27%であった。なお、季刊誌CELを金額換算すると、1000円程度とする方が51%、次いで1500円18%、500円14%という結果であった。

以上、季刊誌CELに対するご意見の主な傾向に

ついでご紹介した。私どもの予想を超えて高い評価をいただいたというのが率直な感想である。しかし今回の11%という回答率を前提にすれば、これはもともと季刊誌CELに好感を持っておられる方々の意見をより多く反映していると考えられるべきであろう。

そこで、私どもとしては、多くの方に今後一層ご愛読いただけるように、さまざまな観点から季刊誌CELのあり方を見直し、改善すべき点をしっかり改善していきたいと思う。今後とも、テーマ設定や内容、形式など、どんなことでもご意見をいただければ幸いである。

(2 3 字 × 5 7 行)